

日銀の視点

県内の水田では苗がぐんぐん成長し、一面緑に輝く田園風景が広がっている。このたび筆者は東京への異動を命じられ、茨城を離れることとなった。ご指導を頂いた本県の皆さまに、厚く御礼を申し上げます。今回は茨城県の大きな強みと成長の可能性について、赴任中に特に印象に残ったことを整理してみたい。

一つ目は、ものづくり（製造業）の裾野が広いこと。県内には輸出向けが主体の素

日銀水戸事務所長 鈴木 直行

大きな強み成長に期待

材、機械、IT関連から国内向けが主体の食料品まで、単純化すると鉄鋼・化学、建設・農業機械や半導体関連から納豆、菓子類まで幅広い業種の製造業が展開している。こうした中で、昨年4～6月に

り、生産活動の落ち込み幅は全国と比べ小さめであった。このように本県の製造業は裾野の広さを背景として、特定の業種の落ち込みによる影響をある程度吸収できるといいう意味で、リスクに対する耐性

内需主体の製造業の回復にもつながることが期待される。二つ目の強みは農林水産物や自然が豊かであること。本県での生活を通じて、県内で開発改良された農畜産物や近海の地魚など多くの魅力的な食材に出合うことができた。そして、豊かな自然や美しい田園風景が農林水産業を担う人々の営みにより支えられていることを実感した。今後、感染症が収束していくと、本県の豊かな自然を満喫できるサイクリングやキャンプ・グランピングといった屋外型レジャ

ー需要の一段の盛り上がりが見えてきた。三つ目は交通インフラが充実していること。陸海空の交通網が整備され、本店機能移転などに対する支援も充実している本県はコロナ禍の下でも多くの企業の拠点として選ばれ、昨年の企業立地件数は全国首位を誇っている。デジタル化や脱炭素などのコロナ後も見据えた需要に対応する企業の誘致・集積を通じ、本県の中長期的な成長につながっていくことが期待される。今後も本県の発展を微力ながら応援し続けたい。

（次回は7月10日掲載）